

# 生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	多発性嚢胞腎の腎症転帰に及ぼす栄養学的因子の後方視的検討	
1. 研究の目的と方法	<p>多発性嚢胞腎(polycystic kidney disease :PKD)は、末期腎不全を来す進行性腎疾患、遺伝性腎疾患ですが、その病気の進行具合は、個人個人で大きく異なり、病気の進行には多様性があることが知られています。</p> <p>一方で近年、PKDの実験動物モデルを用いた基礎研究から、糖代謝、脂質代謝、骨カルシウムなどの電解質代謝、栄養状態が嚢胞増大・腎症進行と関連することが示されています。</p> <p>そこで、当院において多発性嚢胞腎で通院した患者さんを対象に、診療、血液/尿検査で得られた代謝・栄養関連の検査結果(検査値)と、腎臓の機能、腎臓の容積との関連を検証します。</p> <p>ここで得られた結果を元に、将来、代謝・栄養関連の項目を改善することで、病気の進行を抑制する治療法を考案することを目標とします。</p>	
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2026年12月31日まで、研究の実施を予定しています。	
3. 対象となる方等	当院において2000年1月から2024年12月に通院された多発性嚢胞腎の患者さんを対象とします。ただし18歳未満の患者さんは除外します。	
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用いたしません。
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。
	(3) 情報の種類	<p>下記のデータを使用します。</p> <p>バイタルサイン：収縮期および拡張期血圧、脈拍、酸素飽和度</p> <p>血液検査：尿素窒素、クレアチン(Cr)、尿酸値、総蛋白、アルブミン、コリンエステラーゼ、プレアルブミン、カルウム、補正カルシウム(Ca)、リン、マグネシウム、血清浸透圧、C反応性蛋白、赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、網赤血球、血糖値、HbA1c、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪、鉄、総鉄結合能、フェリチン、β2ミクログロブリン、インタクトPTH、1.25VitD、アルカリホスファターゼ(ALP)、骨型ALP、エリスロポエチン、心房性ナトリウムペプチド(HANP、BNP)、ビタミンB12、葉酸、亜鉛、血液ガス分析(pH、重炭酸イオン、イオン化Ca)、尿蛋白定量、尿Na、尿Cr、尿Osm、尿NAG、尿β2ミクログロブリン、尿L型脂肪酸結合蛋白、CT/MRI検査による腎容積/肝容積、CTで計算する骨格筋面積、脂肪面積</p> <p>&lt;背景因子として採用する項目&gt;</p> <p>患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、多発性嚢胞腎の家族歴、生活習慣病の病歴(高血圧症、脂質異常症、糖尿病、心血管病、高尿酸血症)、治療薬剤歴(降圧薬、糖尿病治療薬、脂質改善薬、尿酸降下薬、利尿薬、トルパブタン、腎性貧血治療薬、腎性ミネラル骨症関連薬)</p>
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。

5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。	
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名 東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科 氏名 倉重 真大
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	腎臓・高血圧内科 丸山 之雄
	(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6. 試料・情報を他 機関とやり取り することについ て	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 試料・情報の利用開始予定日：2025年3月頃～	
<b>【問い合わせ先】</b>	機関名：①東京慈恵会医科大学 附属病院 腎臓・高血圧内科 ②東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 腎臓・高血圧内科 研究責任者：助教 倉重 真大（くらしげ まひろ） 電話番号：①03-3433-1111（内線 3221） ②03-3603-2111（内線 5977） 対応時間：平日 9：00 ～ 17：00	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。  
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。